科目コード	S23102	科目名	言語発達障害Ⅱ				
履修区分	必修	開講期	1年後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	河村　千夏						
授業の概要	この講義では、言語発達障害の中でも自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害に伴う言語発達障害について学ぶ。						
DPとの関連	①人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						○
	②言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						◎
	③職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						○
	④複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける						○
	※DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）＝修了までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	・自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害を伴う言語発達障害を理解することで、評価の流れ、内容、支援や指導といった臨床技術の基礎を習得することができる。						
履修上の注意事項	配布資料もありますが、毎回必ずテキストを持参してください。 遅刻は2回で欠席１回扱い、開始後20分以降は欠席扱いですが、やむを得ず遅れた場合も参加してください。 レポートや提出課題はC-learningより指示を出します。提出もC-learningでお願いします。 提出物は期限、課題量の指定を守りましょう。提出が遅延する場合には事前に連絡を頂いていたら対応いたします。						

授業計画

回数	講義内容【担当教員】	事前・事後学修
1	自閉症スペクトラム障害とは	テキストP171～176を読み、DSM-5の診断基準について調べておく（120分）感想レポートを作成する（60分）
2	自閉症スペクトラム障害の言語・コミュニケーションの評価	テキストP176～178を読む（60分） 教材室にあるCARS2、CCC2を見ておく（120分）感想レポートを作成する（60分）
3	自閉症スペクトラム障害の支援の原則	テキストP178～184を読む（60分） TEACCHについて事前に調べておく（120分）感想レポートを作成する（60分）
4	自閉症スペクトラム障害の言語・コミュニケーション指導	テキストP180～184を読む（60分） 事前課題（用語を調べておく）（60分）感想レポートを作成する（60分）
5	自閉症スペクトラム障害の社会的な指導、認知発達・問題行動への対処	テキストP185～191を読む（60分） 事前課題（用語を調べておく）（60分）感想レポートを作成する（60分）
6	注意欠如・多動性障害とは	テキストP194～197を読む（60分） 事前課題（用語を調べておく）（60分）感想レポートを作成する（60分）
7	注意欠如・多動性障害の言語・コミュニケーションの評価と支援	テキストP197～201を読む（60分） 事前課題（用語を調べておく）（60分）感想レポートを作成する（60分）
8	ICT支援	テキストP266～272を読む（60分） 事前課題（用語を調べておく）（60分）感想レポートを作成する（60分）

成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

	書名・著者（出版社）	ISBNコード
教科書	言語発達障害学 第3版(標準言語聴覚障害学)【深浦順一編集】（ 医学書院）	978-4260043427
参考書	言語聴覚士テキスト第３版【大森孝一ほか（編）】（医歯薬出版）	978-4263265604

教員からのメッセージ	講義前は教科書の該当ページを読んでおくこと。講義終了後は、資料を読み返し、専門用語等わからないことがあれば、各自調べて知識を深めておいて下さい。 発達障害のイメージがわかないなどがあれば、発達障害児についての一般書を図書館から探し、読んでおくようにしましょう。
教員との連絡方法	講義後に質問があれば承ります。C-learningを使用しての連絡・質問も可能です。
実務経験のある教員	言語聴覚士として小児療育センター及び特別支援学校にて発達障害児の臨床経験のあり、現在も言語聴覚研究所付属相談室にて小児の言語相談・指導に携わる教員が担当する。